

FORT GANSEVOORT

Popeye Magazine Issue 862
January 8th, 2019



photo Omi Tanaka

01

Chapter

世界のいい部屋。

ニューヨーク、東京、台北、パリ、アテネ、コペンハーゲン、ポートランド、の11部屋！

FORT GANSEVOORT

Popeye Magazine Issue 862
January 8th, 2019

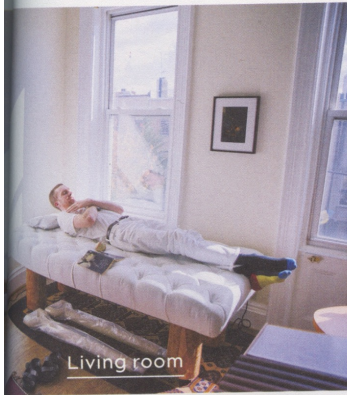


5 Ninth Avenue, NYC, 10014 | gallery@fortgansevoort.com | (917) 639 - 3113

FORT GANSEVOORT

Popeye Magazine Issue 862
January 8th, 2019

photo Omi Tanaka illustration Grace Lee text Momoko Ikeda



Living room

「まるで心理カウンセラーのベッドみたいだね」と言いながら自作のベッドともソファともとれる作品に横たわるサム。枕にしているのは、NYベースの若手コンテンポラリーダンサーデュオFluotが作ったオブジェ。「ダンス以外の彼女たちのアートピースは珍しいんだ」



実 はほとんどこの部屋にはなくて、オフィスや作業場で過ごすことが多いという新進気鋭アーティストのサム。「だからカーテンも未だについてないんだ(笑)、日が昇ったら起きて外に出かける日々だよ。家に来るのも、ガールフレンドと家族くらいかな。寝るための部屋みたいなところがあるし、パソコンも置いてないよ」。想像上の生物に向けて作ったという家具シリーズ(?)や、機能性ではなくフォルムやアイデアを重視したファンタジー溢れるサムの作品たち。使い勝手はさておき、とにかく変わった形のものが多くて楽しい。椅子もたくさんあるけれど、客が来たときにみんなで座るのは床に敷いたラグの上。「まだ定住する場を決めかねている状態だから、床に座るこの感じがちょうどいい。絵とかも額装せずにそのまま飾ってるよ」。確かに、それくらいの未完成な部屋のほうが居心地がよくてつい長居してしまうのかもね。

変わった形のものがたくさんある部屋。

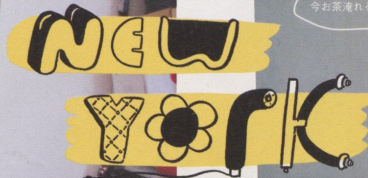
SAM STEWART ARTIST

Area	Space	Remarks
ニューヨーク ブルックリン	ILDK 33㎡	1LDKをルームメイトとシェアしているが、完全間仕切りであるで2LDKのような仕様。

サム・スチュワート | アーティスト。アパートをクイーンズのリッジウッド地区に選んだのは、作業スタジオから近いのが一番の決め手。静かな住宅地でもあり、ジワジワ人気が出てきているエリア。



ウォルター・ハブストの椅子。



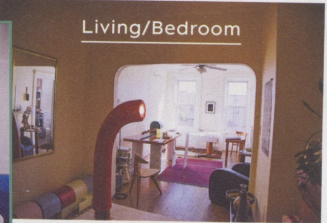
Kitchen

今お茶淹れるからねー

スタジオから持ってきたブラシ。

いつからか持ってるダイナソーの服物。

WELCOME DRINK IS...



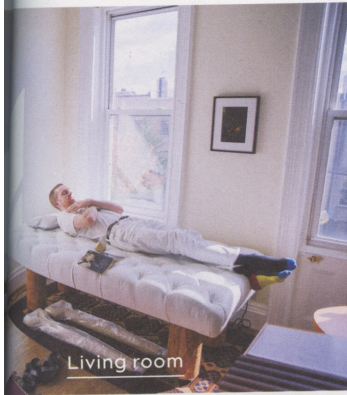
Living/Bedroom

「コーヒーは外で買う主義なんだ。だから家ではもっぱらお茶派」。食卓はルームメイトと共有してるから特にこだわりはなし。キッチンと部屋との間にはスライドアを自分で取り付けて、プライバシーを確保。ベッドルームとリビングとは、ひと騒がりの空間だけれど、「空のな部屋を確保しているから朝も眩しすぎず居心地

FORT GANSEVOORT

Popeye Magazine Issue 862
January 8th, 2019

photo Omi Tanaka illustration Grace Lee text Momoko Ikeda



Living room

「まるで心理カウンセラーのベッドみたいだね」と言いながら自作のベッドともソファともとれる作品に横たわるサム。枕にしているのは、NYベースの若手コンテンポラリーダンサーデュオFluotが作ったオブジェ。「ダンス以外の彼女たちのアートピースは珍しいんだ」



実 はほとんどこの部屋にはなくて、オフィスや作業場で過ごすことが多いという新進気鋭アーティストのサム。「だからカーテンも未だについてないんだ(笑)、日が昇ったら起きて外に出かける日々だよ。家に来るのも、ガールフレンドと家族くらいかな。寝るための部屋みたいなところがあるし、パソコンも置いてないよ」。想像上の生物に向けて作ったという家具シリーズ(?)や、機能性ではなくフォルムやアイデアを重視したファンタジー溢れるサムの作品たち。使い勝手はさておき、とにかく変わった形のものが多くて楽しい。椅子もたくさんあるけれど、客が来たときにみんなで座るのは床に敷いたラグの上。「まだ定住する場を決めかねている状態だから、床に座るこの感じがちょうどいい。絵とかも額装せずにそのまま飾ってるよ」。確かに、それくらいの未完成な部屋のほうが居心地がよくてつい長居してしまうのかもね。

変わった形のものがたくさんある部屋。

SAM STEWART ARTIST

Area	Space	Remarks
ニューヨーク ブルックリン	ILDK 33㎡	1LDKをルームメイトとシェアしているが、完全間仕切りであるで2LDKのような仕様。

サム・スチュワート | アーティスト。アパートをクイーンズのリッジウッド地区に選んだのは、作業スタジオから近いのが一番の決め手。静かな住宅地でもあり、ジワジワ人気が出てきているエリア。



ウォルター・ハブストの椅子。



Kitchen

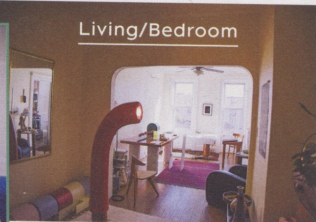
スタジオから持ってきたブラシ。

いつからか持ってるダイナソーの服物。

WELCOME DRINK IS...



Living/Bedroom



「コーヒーは外で買う主義なんだ。だから家ではもっぱらお茶派」。食器はルームメイトと共有してるから特にこだわりはなし。キッチンと部屋との間にはスライドアを自分で取り付けて、プライバシーを確保。ベッドルームとリビングとは、ひと騒がりの空間だけれど、「空のないう部屋を確保しているから朝も眩しすぎず居心地

FORT GANSEVOORT

Popeye Magazine Issue 862
January 8th, 2019

本当にいい部屋ってなんだろう?
page 025 page 024

Sam Stewart
New York
33m²

道のスタンドパイプが
インスピレーション源の
自作ランプ。

Bedroom

カラフルなラグの奥にあるのは、実は櫛の部屋に続くドア。白い椅子は、チャイナタウンの人気レストランDimesのために10点限定で作った椅子の一つ。その上のランプは「paper magazine」のエディター、キムからもらったもの。枕カバーは、20年以上前のイヴ・サンローランのもの。

リビングとベッドルームがつながった、まるでワンルームのような作り。バスキッチンは共有。

リビングの一角には作品たちがギャラリーのようにきれいに並んで保管されている。過去の椅子シリーズから最新作のランプまで揃うアーカイブコーナーだ。

サンキャッチャーがキラキラした光を部屋に運び込む。

「オレンジの部分は実はDimes用に作ったテーブルトップのプロトタイプなんだ」

いい感じだ。

タウバ・アウエルバッハの時計。

ウィンドウのマテューニランプ。